

「生活第一なんて当たり前（代表選記者）」、当たり前(恒真)こそが超原点、偏西風蛇行、エルニニョ(気象庁会見)の難解語を言われると猛暑が納得？、学校教育で逆転日本人!?、現代世界は大規模な詐欺徘徊時代、記憶学習でなく、「原因がこうだから結果がこうなる(因果-論理推論)」に徹底こだわる教育&実業現場の超原点回帰がないと失敗~破滅する！。

[1]：大規模な騙しが支配する論理学教育のない現代世界。

この世に起きる時間空間の一箇所事象(物理的に観測可能)の可能性は、{真(実現), 偽(非実現), 肯定, 否定}のいずれか一つに限る。之が論理学である、また現場現実である。

肯定否定が同時に起きる矛盾は現物世界では不可能。然るに論理学とは当たりの議論(恒真論)、 $A=B$, $B=C$, ならば $A=C$ の3段論法(推論)はその典型例にある。当たり前から外れるから矛盾~虚偽失敗破滅が起きるのです。歴史政治経済-気候科学には結構大規模な騙しが今、世界を支配してる。之は最終的に地球全市民生活を支配するだろう。

簡単当たり前こそ尊重すべきで、難解複雑を有難がるは学校過剰教育無能化の結果?!。

*問題点は時間発展過程、之は物理学基礎論的には確率過程であり、決定論でない。

だが統計的平均を取ると因果論的になる現象もあるが、大気海洋流体カオスは違う。

<http://www.777true.net/slavejapan.pdf>

*②超大局統合科学としての論理学入門(p4)

<http://www.777true.net/decisionmaking2.pdf>

[2]：生活第一は当たり前か？、異常気象~赤道域海面温度変化はなぜ起こる？。

(1)2010/09/01:菅首相 vs 小沢議員の民主党代表選挙での記者会見(NHK 放映)質問。

小沢氏の「生活第一なんて当たり前でないか」と言う侮蔑-賞賛を込めた質問発言、当たり前を実行してこそ、秩序維持が持続する、虚偽誤算-矛盾はいずれ生活破綻に。

(a)虚偽誤りを主張する事は現実(真)と言動(偽)の同時成立主張に同じで矛盾になる。

論理学では矛盾を一度肯定すると、全命題が真になり、理論崩壊=破綻が起こる。

(b)裁判こそは典型的な論理判断作業、本命検察が一年有余捜査で小沢氏不起訴、オム返し如く説明を求める記者クラブ独占報道だが彼らはネット公開資料を見ないのか、マスコミの国民大支配度を利用、論理でなく「政治と金」のワンフリーズ感情心象操作が見え々だが。その実はもし対米自立派の小沢氏が政権掌握になると、当然ながら戦後一党独裁自民の大本営発表=既成独占マスコミの「マスコミと金利権」の本性が暴露喪失される事を恐怖してるのです。その兆候一つは従来独占形態の記者クラブ開放民主化会見、

http://blogs.yahoo.co.jp/hisa_yamamot/18243074.html

(c)戦後一党独裁体制で**政権交代重難度**を承知の民主党指導者は黒幕米支配を煙に巻く為に、.....皆が思う以上に民主党指導者集団は本気で有能?!。

(2)2010/09/03: **最近の歴史記録的猛暑と気象庁苦肉の会見** (夜の NHK 第一放映)

近日猛暑熱帯夜は日本全国で誰もがまいてる。そこで報道関係から気象庁にどうなったの記者会見が昨日あり、専門家説明が{偏西風蛇行と赤道海域のエルニニョ、ラニニャ}、そこではなぜ其れが起きるの一步手前の因果論の議論が報道にない。

http://mainichi.jp/select/weathernews/news/20100904ddm008040067000c.html?link_id=RSH04

之で日本列島猛暑 原因が納得できるのか。記者は突っ込みが?!、NHK が温暖化原因報道を止めたのか?、南米では寒冷が、だが全球平均では相変わらず温度上昇中。地球過剰熱は大気ではなく、**99%が海洋蓄積する。海洋温度分布が大気陸上気候を支配する。**

(a)Warmest Year-to-Date Global Temperature on Record(2010/8/17)

<http://www.sciencedaily.com/releases/2010/08/100817133158.htm>

(b)気象庁の日本近海の海面温度と、平年差の温度分布。

http://www.data.kishou.go.jp/db/kaikyo/daily/sst_jp.html

問題は平年差、北側海洋面程に温度が高い。之では平常値にならない。

[3]: 既成体制持続の為に、目先の嘘を言う者は近日、著しい苦境を招く。

理論屋使命は現状データと論理推論で将来を見通す事だが、2007年初め以来、気候変動問題に関与して判る事は、現実には常に**予測を上回る速度**で進行する事だ。この事はかつて見たオーストラリア気候科学者の言い分の復唱。IPCC(気候変動に関する政府間会議)の予測に関しても常に観測科学者等から指摘される大問題(だが2007IPCCは急不可逆変動を警告)。

現実変化が予測速度以上と言う事は計算機モデルに何らかの加速要因欠落を意味、一例は温度上昇とメタンガス自然放出増、及び極域の氷層融解、グリーンランド融解は常に予測を超える速度で進行と指摘される。白い氷は太陽熱反射、其れがないと熱吸収。海温上昇と透明度変化で熱吸収が増大、乾燥と山火事での山林炭素吸収減,.....

筆者は科学者, 大学研究機関, 関係行政に事態深刻さをこの3年間訴えたが、了解者も多いのだが、実行動がない。その理由は簡明?で、現実を認めると、御大=世界資本主義が持たないからだ。先進国では衣食住がほぼ満足し(?), 資本主義の仕事は華美贅沢の追及一途、それは石油電力大量消費抜きで済まない。追いつけの途上国とて事情は同じである。

政治家, 政府から研究資金を得る科学者、宗教家も誰も大資本体制意向には逆らえない!?. だが世界事態が今回の如く、北半球異常猛暑、南半球異常寒冷と世界市民に見える形で事態が進行するといずれは大決断が避けがたいだろう。建設現場等では危険を避ける為に休業する工事現場も見える。仕事にならないのだ。命直結の食糧=農漁業影響も甚大、今年末のメキシコでのCOP2010 気候変動世界会議はおおもめ必須だろう。

<http://cc2010.mx/en/>

[4]:世界実態は危急、爆弾銃弾なき**国家戦時体制**と言う事だろう！。

論理学に従えば常に可能性は肯定否定相反のいずれかである。

(1)世界が危急性を認めず、名国地域で被災が拡大進行する。世界経済は傾き、生活基礎物価が上昇、生活苦&生活不安-暴動が拡大するので政府強権抑圧が不可避。

<<Operation END GAME, <http://www.prisonplanet.com>>>

(2)世界が危急性を認め、劇的な地球規模対策が実行される。国家準戦時体制化。

地球市民全部が対気候変動危機対処への生きる為の兵隊になるしかない。

“窮乏状態下での共に生きるの哲学”がないと上記(1)になってしまう。

<<<http://www.777true.net/OPERATION-GLOBAL-RAMADAN.pdf>>>

ここで改めて“生活第一の真相”を究めると、実は簡単容易でない事が判る。

だがまだ不可能を証明した者は居ない。ぜひ全球市民の創意建設的見解を集約して一つの合意が希望される。以下の歌詞は非常に示唆深い

*“Save the children” in album what’s going on by Marving Gaye, 1971.

<http://www.youtube.com/watch?v=v1tNOZKnRgs&feature=fvsvr>

上記では一番最後の“dig it evrybody”の歌詞が欠落。